

2009 (平成 21) 年 9 月 1 日 第 27 号

発行：(福) 十字の園本部署務局
理事長 平井 章

住所：〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
tel 053-436-9535
fax 053-437-1352

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)



「自分らしく、その人らしく、生き生きと、
あなたの“生きる”を支えます。」

それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、
人々は今日もなお「主の山に備えあり」と言う。(創世記 22 章 14 節)

ケアハウス第2アドナイ館 施設長 平井 章



2009年6月1日、地域密着型特定施設入居者介護施設としてのケアハウス第2アドナイ館(定員20名)がオープンしました。介護型ケアハウスとは、これまでのケアハウスとも特別養護老人ホームとも異なる新しい体系です。介護職員が配置(夜勤帯も配置)され、介護サービスを一体化して提供する施設です。施設の理念は「主の山に備えあれ」、運営方針は「自分らしく、その人らしく、生き生きと、あなたの“生きる”を支えます」としています。それを具現化するために、「四つのリハビリ(心・頭・口・体のリハビリ)」を上げました。リハビリテーションは直訳すれば、「人間的復権」「人間復興」です。自分らしく“生きる”ことを支援するためには、理学療法による「体」のリハビリだけではなく、精神的・霊的に働きかける「心」のリハビリ、食べることや話すことへの「口」のリハビリ、趣味や娯楽を含め毎日の生活を自分で生きる「頭」のリハビリも大切です。

『だれが特別養護老人ホームを創設したのか』

理事長 平井 章

1. 『福祉』の原風景」と題して

介護情報誌「おはよう21」の6月号に『福祉』の原風景」と題して「だれが特別養護老人ホームを創設したのか」が掲載されています。『日本の福祉活動におけるこの歴史的事実は、忘却の彼方へやられようとしている。いわゆる寝たきりの高齢者を介護する特別養護老人ホームは、現在六千百十五ヵ所を数えるが、その事始について、どれほどの人たちが知っているのか』と、書き始められています。2年ほど前に、聖隷関係を取材し、それも高齢者福祉について記事にしたいと、ノンフィクション作家加藤仁（かとうひとし）氏が来訪されました。参考文献として法人が保有している「30周年記念誌」『十字の園老人ホームが出来るまで』などを提供し、なお、同氏は、浜松ディアコニッセ母の家の山浦ミツ姉妹や長谷川力氏（聖隷事業団前理事長）など数名を取材していきました。

2. 新たな視点から十字の園の原点を学ぶ

取材や資料から特別養護老人ホームの創設への経緯が書き進められています。第1回はドイツから1人の宣教師と5人のディアコニッセの来日と老人ホーム創設のことが記されています。第2回は創設資金のためにハニ姉妹がドイツに渡ったこと、山浦ミツ姉妹の証言があり、第3回では、「最初の利用者」「手さぐりの介護」「忘れられない人」と小見出しにみる記事があり、『豊かな感性と実行力を兼ね備えて仕事にたちむかえば、介護のノウハウはあとからついてくる。』『ハニは老人を愛し、その人格を尊重し、利用者本位を貫く。お年寄りに私たちの両手いっぱい差し出さない。』と記事は進みます。

この連載は10回まで続くと聞いています。今から50年前の出来事、考え方ですが、原点を教えられるだけでなく、今、技術や知識が積み重ねられたにもかかわらず、介護の基本、介護の姿勢に対する「忘れ物」を学ぶことができたような気になります。

3. 十字の園のケアは介護の基本に忠実

ある福祉大学の非常勤講師の先生に、学生は次のような質問をしました。「先生は、浜松十

字の園で介護の原点を見たと言葉や本で言っていますが、その原点となる姿勢はどのような姿勢だったのでしょうか？それはキリスト教思想が大きく影響を与えていた姿勢だったのでしょうか？」。その先生は学生に返事を書きました。「私は今から33年前に1週間にわたり聖隷集団を取材しましたが、病院には特別に感心しませんでした。感心したのは当時の十字の園のケアでした。これは浜松十字の園だけでなく、御殿場十字の園でも同様でした。もしあのときに十字の園を取材しなかったならば、私とその翌年に聖隷に就職したかどうかは、かなり怪しいものだと思います。それほど感心しました。私が指摘する介護の基本に忠実だったというのは、①高齢者に対して、腰を落して、目線を合わせて接していたこと、②高齢者の手を握りながら接していたこと、③高齢者とゆっくりとした態度で、コミュニケーションをとっていたこと。この3つです。この3つが老人ホームの基本的なケア態度だと思います。」

4. キリスト教思想の影響

「利用者を大切にすることが、言葉だけの概念ではなく、実践の中でしっかりと守られていたのです。この3つは、なにもキリスト教施設でなくても守られなければならない大切なことです。」と返事は続きます。でも、あの当時の十字の園のなかには「あなたの隣人を大切にすること」という精神が、言葉ではなく、実践の中に生きていたと記しています。

「十字の園老人ホームが出来るまで」のビデオは、「そして、あなたのすることはすべて、言葉によるとわざによるとを問わず、いっさいイエスの名によってなし、彼によって父なる神に感謝しなさい（コロサイ3：17）」で終わります。このみ言葉は、浜松ディアコニッセ母の家の玄関に、当時の家長西村一之牧師が書いて掲げていたものです。当時の十字の園は、このみ言葉によって実践していたと思います。50年前のこのように、今からでもできることなのではないでしょうか。キリスト教福祉と一般の福祉との違いが、そこに見えます。

理事就任のあいさつにかえて

堀口 路加



私たちの人生、よく山登りにたとえられます。目指す山は人それぞれ、辿る道も違いますが、上ったら下るのが山登りです。山登りに共通することは、山頂への上りより下り方が足腰に負担がかかり、痛みと危険を伴うことです。年齢とともに体は衰えていく、けれども私たちは二つの世界に根ざして生きていることを思う時、どこまでも続く登りつめていく世界があることも間違いありません。時間と空間に縛られた地上の世界において私たちは「老いの下り坂」を実感しますが、同時に永遠の命に向かう目に見えない世界においては、人生は命の限り上り詰めていく「上り坂」だと思ふのです。その上り坂を立ち止まりながら行く先を見上げつつ、一歩また一歩と切り開いていく努力を重ねておられる方が十字の園や聖隷の中にはたくさんいらっしゃるのを拝見し頭が下がる思いがします。今の時代、幾多の困難と様々な人生の問題に翻弄されて、若くて体力的に恵まれている人や精神的に強そうに見える人、頭によさそうな人でも自分の力の限界に突き当たり、ポキッと折れてしまう人のいかに多いことか。聖書には「たとえ私たちの『外なる人』は衰えていくとしても、私たちの『内なる人』は日々新しくされていきます」と記されています。困難な地上の道を行くうちに体は衰えても、私たちに宿る霊の辿る旅路はイエス・キリストが永遠の命へと導いていてくださるのです。もちろんイエス・キリストに従って歩む時でも、人生から様々な困難や問題がなくなることはないのですが、神様のご計画、御心を問うように私たちが変えられ、そこに意味を見出せたとき、人生の様々な困難が困難でなくなることはありえます。これも私たちが体験する人生の大きな奇蹟ではないでしょうか。神様からの平安が皆さんとともにありますように祈ります。

伊豆高原が新しく変わります

伊豆高原十字の園 相談室主任 小川 秀幸

伊豆高原十字の園は伊豆半島で最初の特別養護老人ホームとして昭和56年に開設して以来28年が経過しました。長年の使用により設備の老朽化が目立ち、修繕の費用も年々かさんでいく一方、耐震基準を満たしていないことから施設の耐震改修を行うよう準備を進めておりました。

しかし、その費用が高額であること、また現在の建物は無償とはいえ期限付きの借地であるということであるのならば、耐震のみの改修ではなく、思い切って「移転改築」という方向で選択致しました。

建て替えの話が出て間もなく、移転改築の際は新型特養として建設されるため、職員による県内の新型特養施設見学や施設内外から移転改築についてのアンケートを取り、いろいろな意見が出る中、ユニットケアに対しての勉強をし、職員一人ひとりが未だ見ぬ新しい建物に夢を抱いております。

建物の設計は久米設計にお願いし、2週間に一度程度の設計協議を進め、新施設の設計図に先人達の思いを継承しつつ各部署の意見を取り入れてもらっております。伊豆高原（八幡野）地区は国立公園の中に位置しており、各種の規制が多くある中、平成23年4月1日開設を目指し職員一同邁進しております。



福祉事業会計 貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	882,845	流動負債	57,697
現金預金	486,400	未払金	53,103
未収金	381,274	預り金	4,594
立替金	12,897	前受金	0
前払金	2,274		
固定資産	3,545,541	固定負債	805,032
基本財産	3,121,796	設備資金借入金	660,069
土地	516,441	長期運営資金借入金	0
建物	2,605,355	長期預り金	111,862
その他の固定資産	423,745	退職給与引当金	33,101
土地	131,126	負債の部計	862,729
建物	4,654	純資産の部	
構築物	1,051	基本金	870,123
車両運搬具	14,977	国庫補助金等特別積立金	1,739,299
器具及び備品	30,004	積立金	87,900
権利	2,250	施設整備等積立金	78,000
施設整備等積立預金	78,000	修繕積立金	7,700
修繕積立預金	7,700	備品等購入積立金	2,200
管理費積立預金	111,862	次期繰越活動差額	868,335
備品等購入積立預金	2,200	(うち当期活動収支差額)	62,723
退職共済預け金	33,101	純財産の部計	3,565,657
福利厚生資金預け金	6,600		
長期預け金	220		
資産の部計	4,428,386	負債・純財産の部計	4,428,386

福祉事業会計 事業活動収支計算書

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
人件費	1,777,390	介護保険収入	2,481,234
経費	632,651		
(直接介護費)	387,520		
(一般管理費)	245,131		
利用者負担減免額	4,154		
減価償却費	200,271	国庫補助金等特別積立金取崩額	126,364
引当金繰入	6,571		
事業活動支出計	2,621,037	事業活動収入計	2,607,598
借入金利息	10,688	借入金利息補助金収入	4,576
その他の事業活動外支出	11,759	受取利息配当金収入	1,583
雑損出	1,762	寄附金収入	47,509
		その他の事業活動外収入	13,843
		雑収入	13,545
事業活動外支出計	24,209	事業活動外収入計	81,056
国庫補助金等特別積立金繰入額	25,524	施設整備等補助金収入	25,524
固定資産除売却損	176	固定資産受贈額	3,006
他会計区分繰入金支出	47,779	他会計区分繰入金収入	47,779
会計区分外繰入金支出	0	会計区分外繰入金収入	16,406
		その他の特別収入	79
特別支出計	73,479	特別収入計	92,794
当期支出計	2,718,725	当期収入計	2,781,448
当期活動収支差額	62,723	積立金取崩・積立額	4,900
前期繰越活動収支差額	810,512	次期繰越活動収支差額	868,335

診療所会計 貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	23,816	流動負債	830
現金預金	19,596	未払金	830
未収金	3,775	負債の部合計	830
薬品	445	純資産の部	
固定資産	768	基本金	0
器具及び備品	768	次期繰越活動差額	23,754
		(うち当期活動収支差額)	1,717
		純財産合計	23,754
資産の部合計	24,584	負債・純財産の部合計	24,584

診療所会計 事業活動収支計算書

勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
事務費支出	5,935	診療収入	24,051
診療支出	6,969	診療外収入	1,697
繰入金支出	15,406	受取利息配当金収入	37
		雑収入	4,242
事業活動支出計	28,310	事業活動収入計	30,027
当期活動収支差額	1,717	積立金取崩・積立額	0
前期繰越活動収支差額	22,037	次期繰越活動収支差額	23,754

就労継続支援会計 貸借対照表 (単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	9,527	流動負債	1,633
現金預金	1,678	未払金	1,633
未収金	7,446	固定負債	265
仕掛品	208	退職給与引当金	265
原材料	195	負債の部合計	1,898
固定資産	1,790	純資産の部	
器具及び備品	1,525	基本金	0
退職共済預け金	265	次期繰越活動差額	9,419
その他の固定資産	0	(うち当期活動収支差額)	9,419
		純財産合計	9,419
資産の部合計	11,317	負債・純財産の部合計	11,317

就労継続支援会計 事業活動収支計算書

支出の部	決算額	収入の部	決算額
製パン事業支出	3,479	製パン事業収入	4,879
縫製事業支出	1,119	縫製事業収入	411
陶芸事業支出	1,363	陶芸事業収入	54
他の事業支出	350	他の事業収入	341
下請事業支出	1,323	下請事業収入	2,107
就労支援事業支出	7,634	就労支援事業収入	7,792
人件費収入	14,580	自立支援費収入	21,520
事務費支出	1,211	その他の事業収入	50
事業費支出	661	経常経費補助金収入	2,719
減価償却費	311	寄付金収入	2,679
		雑収入	53
福祉事業活動支出	16,763	福祉事業活動収入	27,021
会計単位館繰入金支出	1,000	受取利息配当金収入	3
事業活動外支出	1,000	事業活動外収入	3
当期支出計	25,397	当期収入計	34,816
当期活動収支差額	9,419	積立金取崩・積立額	
前期繰越活動収支差額	0	次期繰越活動収支差額	9,419

財産目録 (単価:円)

資産・負債の内訳		金額
I 資産の部		
1. 流動資産		916,188,815
現金預金	静岡銀行他	507,674,324
未収金	(介護報酬他)	392,495,360
立前替金		12,897,275
前払金		2,273,972
貯蔵品	(棚卸残高)	444,847
仕掛品		207,750
原材料		195,287
2. 固定資産		3,548,099,930
(1) 基本財産		3,121,796,662
建物	(9棟 21,902.05㎡)	516,441,476
土地	(23筆 26,156.98㎡)	2,605,355,186
(2) その他の固定資産		426,303,268
土地		131,126,000
建物	(倉庫・物置)	4,653,644
構築物	(門扉・陸橋等)	1,050,693
車両運搬具		14,977,395
器具及び備品		32,297,155
権	(松崎温泉利用権)	2,250,000
施設整備等積立預金		78,000,000
修繕積立預金		7,700,000
管理費積立金	(ケアハウス入居一時金)	111,862,000
備品等購入積立預金		2,200,000
退職共済預け金	(退職共済積立金)	33,365,881
長期預け金		220,500
福利厚生資金預け金		6,600,000
資産の部合計		4,464,288,745
II 負債の部		
1. 流動負債		60,161,172
未払金	(業者支払い他)	55,566,931
預り金	(所得税他)	4,594,241
2. 固定負債		805,296,448
設備資金借入金	福祉医療機構 5口、県社協 2口	660,068,567
退職給与引当金	静岡県退職共済	33,365,881
長期預り金	ケアハウス入居一括徴収金	111,862,000
負債の部合計		865,457,620
差引	純資産	3,598,831,125

浜松十字の園

施設長 山本隆弘

(20年度報告)

小規模通所介護「あんき」の事業は平均17名の利用者があり、住宅改造の建物により満足度の高い運営ができた。小規模認知症通所介護「のんき」も評判が良く利用待ちの状況である。一方、施設内で実施している標準型通所介護「みをつくし」、短期入所の在宅事業については、感染症の影響も含めて低調であった。ユニット型ケアハウスの創設事業は順調に実施することができた。

(21年度計画)

6月のケアハウスの開設に伴い、組織体制を変えることと、職員の異動、施設長の交代に伴う運営をスムーズに実施することが一番の課題となる。通所介護事業、短期入所事業の利用者確保も重点課題の一つである。

伊豆高原十字の園

施設長 青木克文

キリスト教精神の継承と実践のために、毎日礼拝を守りました。

施設介護の現場では「質の向上」を図り、部署間の連携の充実のために勉強会を充実させました。また新職員研修プログラムも24ヶ月研修で一巡し新たなプログラムに取り組みます。

在宅部門では収支結果は減収を計上しましたが利用者により安心してサービスを利用していただけのように「認知症」勉強会の開催や業務の見直しを図りました。

今後については2年後の移転改築に向かい地域との交流の中でより良い関係作りに努力したいと思います。

松崎十字の園

施設長 三條洋二

毎朝の礼拝よって一日が始まり、松崎教会の日曜日の祈りの中に利用者他施設があり、礼拝の労を取る松崎教会、下田教会の牧師・教会員に感謝であります。

高齢者は、15名の方々召天された事で年間重点目標達成よりもターミナルケアでの実施により多くの学ぶ機会を与えられました。

障害者施設オリブは、2床の増床と1名の退園者で新しい利用者と共に落ち着きが少しずつできてきました。

就労継続支援B型のワークショップマナは、新しい事業のパン工房で収益が増加しましたが機械部品内職の減少と利用者増により工賃アップまでにはいたりませんでした。

いずれの事業の会計は、人の見直し等を行い赤字になることなく終わりました。感謝であります。

御殿場十字の園

施設長 上野貢一

20年度も精神基盤である聖書み言葉「喜ぶ人よ共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」を掲げ、毎朝礼拝から始めました。特に、サービスの質向上と地域の「介護の文化の創造」を目指し、様々な福祉サービスに取り組みました。

- 4月 短期入所生活介護(10床→11床)
地域包括支援センター(3人→4人)体制
- 6月 在宅介護家族の会への支援、職員派遣
- 10月 障がい者日中一時支援事業を開始
第三者評価事業受審(日本社会福祉士会)福祉オンブズマン導入
- 11月 特養家族懇談会 参加32家族
- 2月 第3回市民公開講座 甲野善紀講師「甲武道を用いて介護技術」参加者81名
- 3月 ボランティア懇談会 出席者41名

アドナイ館

施設長 宮岸孝一

キリスト教の精神に立って、入居者・利用者の一人一人に配慮した福祉サービスを提供することに心掛け献身的に取り組みました。毎朝の礼拝で示される聖書のみ言葉を通して職員各自の与えられた霊的な糧と福祉の業の実践と基本理念の継承に心掛けました。

自立支援の限界(ケアハウスでの看取り)を体験し、重年加齢による能力の低下を多種のサービスを通して乗り越えられた一年でした。

通所介護・介護予防事業は、運営規定の一部変更届と介護報酬改定に伴うサービス提供体制強化可算の追加届を提出し、個別のサービス計画に従いケアマネージャーと連携し取り組みました。

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜

施設長 森 茂廣

- 1) テーマは「自分らしく、そして共に生きる」
 - ・癌等の重篤な病を抱える方々に最期迄寄り添いました。
 - ・ノロウィルスによる感染症に苦しみつつ、学びました。
 - ・認知症のある方と共に生きる姿勢で、入居者、スタッフ、日々学び、成長しています。
 - ・入居者相互理解、協力の進展、和解の実現に努めました。
 - ・月例の弁当の日には、お台所スタッフも、直接、利用者ともまじわり、喜びを共にしています。
2. 安心して生活できる地域社会となるために！
 - ・各種事情による緊急ショートを柔軟に受け入れました。
 - ・元気で通い続けられる「いきがいデイサービス」とする為に、介護予防に役立つプログラムの充実を図りました。
 - ・年度後半より、通所事業を中心に、メリハリのある介護保険サービスに成長してきたといえます。
3. その他
 - ・懸案の玄関及び厨房の雨漏り箇所の修繕をしました。
 - ・コンビオープンを購入設置して、食事の安定供給に努めました。
 - ・車両を購入し、通院、デイ送迎等のサービスの向上に努めました。
 - ・3年連続の赤字決算となりましたが、次年度以降、具体的な対策を立て、体質改善に努めます。

白熱の春季スポーツ大会 浜松十字の園 鈴木 敬二

緑濃い5月27日、特養、地域密着型施設の利用者合同で、歩いて行ける聖隷クリストファー高校の体育館をお借りして、春季スポーツ大会を開催しました。浜松十字の園としては初の試みです。

プログラムは、定番の開会挨拶（6月からの山本新施設長）、田中実行委員長の開会宣言、リハビリ担当（石井・藤田）による準備体操に続いて、赤組・白組の応援合戦で盛り上がり、1つ目の競技、パン食い競争へとなだれ込みました。笛を合図に、単独でまっしぐらの方、職員と手をつないで歩いて行く方、車椅子を押している職員が走る方などなど、我先にと棒に吊るされたたパンを目指し、顔を真っ赤にしてゴールに向かいます。続いて赤白対抗の玉入れを行いました。車椅子の方も、ボランティアさんに体を支えてもらう方も、籠に向かって懸命に玉を投げ、こぼした玉をむきになって拾う熱い職員…まさに白熱の試合展開

でした。成績は白組の勝ち。代表になっていたいただいた利用者に行き届いた表彰状が渡され、皆で万歳して喜びました。

惜しくも敗れた赤組の方に、体育館から施設へ帰る道すがら、車椅子を押しながら「楽しかったですか？」と伺うと、「うん」と答えて下さった笑顔に、勝敗にかかわらず、利用者の皆さんがその持てる力を発揮できる場になったのでは？と感じました。また、ボランティアの方、新設の第2アドナイ館の職員の協力も得て、地域が一体となった行事をなし得たことを大変嬉しく思っています。



やきとり!! 御殿場十字の園 ショートステイ 伊澤 香

「本格的な夏を迎える前に、『お昼に焼き鳥を焼いて皆で食べましょう。』という企画を立てました。材料の調達依頼、機材の準備を進め、欲を言うと、備長炭で…と思ったのですが、「炭火がなかなか熾きなくて、お昼に間に合いません。」となったら、確実に「食い物のうらみは…」となることは『火を見るより』明らかです。というわけで、やむなくプロパンガスのボンベを借りる事にしました。

さて当日、真夏に火の近くは暑いから5月にしたと言うのに、空はどこまでも青く晴れわたり、しっかりと初夏の様相を呈しています。前もって「焼き鳥は何が食べたいですか？」と当日ショートステイ御利用の方々からリクエストをとり、その結果『ねぎま』『つくね』『もも』の3種類のネタと決定しました。もし『ナンコツ』やら『皮』が食べたいとなったらどうしよう!!と思ったのですが、そのような希望は出てこなかったのが安堵しました。リクエストにはお答えしたいのですが、やはり安全を考えると難しいということがあります。そういえばガスボンベを持ってき



てくださった業者の方が「屋内で使わないですよね？」と至極当たり前の事を心配顔で聞いてきたのには驚きました。なんでも昨今、その当たり前が出来ない人が増えているそうです。IHが普及した

ため「炎」「熱」というものに無頓着な人が、安易な利用で…ということが少なからず要因として存在していると言います。使い古された言葉かもしれませんが『安全第一』ですよね。今回のイベントは安全・安心も『隠し味』と思っていただければありがたいと思うのですね。

お昼に間に合うように10時頃から2階ショートステイのベランダで準備を始めます。職員駐車場に面した2階のベランダで焼いているわけです。風通しも良く煙がこもるような場所は無いのですが、どういうわけか焼き鳥の芳しい香りが、御殿場十字の園の建物の中を一人歩きして行ったようでして、それも2階で焼いていると言うのに何故か1階の人々が「どこかで焼き鳥を焼いている。」とざわざわと騒ぎ始めて来ていたと言います。食べ物香り、とくに焼き物の香りには敏感ですね。出来上がった焼き鳥に特製のたれをつけて、皆さんのお昼の食卓を彩ってくれました。

ショートステイを御利用になられた皆さんが『美味しい優越感』を感じてくださったことが、なによりの『おいしさ』を物語っていると思うのですがいかがでしょうか？



地域の交流・いろいろ取り組んでいます！

対島地域包括支援センター 小針 国子

今年度も、いきいきサロン・「ふれっしゅ！」と介護者のつどい・「やすらぎ」が始まりました。

「ふれっしゅ！」は、「地域の高齢者の方が気軽に集まれる場所を作ろう！」と平成18年から開催。現在参加者は、毎回20人前後。ボランティアの協力を得ながら、地域のコミュニティセンターを利用し、毎月開催しています。4・5月はボランティアのアコーディオンとギターの方の伴奏で、懐かしい歌を歌ったり、炭坑節等を踊ったりと、楽しいひと時を過ごしました。日頃独りで生活されている

方が、この時とばかりマイクを持って大きな声で歌っていました。

「やすらぎ」は、平成19年から開催し、介護をしている人が、自分の経験を話したり、情報交換をする場となっています。自分の状況や経験を話すことで、気持ちがすっきりし、お互い励ましあったりなどの交流の場となり、参加者の方が元気になって帰られる様子を見ることが出来ています。



アドナイ館から第2アドナイ館への引っ越し アドナイ館 三輪真理子

6月1日 第2アドナイ館がオープンしました。アドナイ館から9名の方が引っ越しされました。5月31日 朝から業者のトラック3台が玄関に横付けし、部屋毎に荷物を運び出し積み込みます。お部屋の中ではできるだけ元の通りの配置を再現出来るように、写真を撮ったり、配置図を書いたりし、テーブルの上の細かいものは職員が箱詰めしました。すべて終了したのは夕方おそくになっていました。9名の方はそれぞれ十字の園ショートステイやご家族のもとで一泊し、6月1日の夕食から新しい場所での生活が始まりました。

高齢になってからの引っ越しは大変なことです、一人一人の上に神様の祝福をお祈りいたします。



生活の中でのリハビリ

松崎十字の園 山本 貴一

今年度4月より入所者全員に個別機能訓練を実施する事になりました。個別機能訓練と言っても、皆さんがイメージするような訓練というリハビリではなく、“生活リハビリ”と言って、車椅子をご自分で動かすことや、トイレ等でのズボンの上げ下げをご自分で行うという様に、日常動作を少し時間が掛かってもご自分の力で行うと言うものです。今の生活を維持する為に、必要な機能を生活の関連動作により無理なく出来る訓練です。介護職員は動作を見



守りながら方法をアドバイスします。過剰介護にならない様に利用者の皆さんを補助します。職員にとっては、つい手を出したくなる場面もありますが、利用者の皆さんは今出来る機能を維持する事こそが、“その方がその方らしく明日も生活して行く為に大切なことである”と、心に持ち生活を共にさせてもらっています。

今年度からはリハビリ専従の職員も配置されました。利用者さんの生活が今まで以上に潤うことを願っています。

「5月13日・裾野ヘイチゴ狩りに行きませんか？」

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 岩澤 絹代

施設のあっちこっちにポスターを貼り、参加者を募ったところ、マイクロバスの定員が14名ということもあり、すぐに「満員御礼の」お知らせに代わりました。そこで、イチゴ狩りに参加できない方々のためには、翌14日ジャム作りの計画をしました。

いよいよ5月13日が近づくとつれて、あまり芳しくない天気予報に、「天気は大丈夫かね？」という心配の声…「明日だけは天気にして下さい。」と思わず、手を合わせて祈りました。そして、その日は見事に晴天でした。

何故、裾野へ？…それは、裾野市で「いちごハウス」を営む職員の家族の好意があったからでした。ビニールハウスに到着すると、一面の真っ赤な苺と甘〜い匂い。一同大興奮、そして大歓声。翌日のジャム作りのためにと、それぞれ大きな箱を持っていたのですが、あまりのおいしさに、まずは、「いぶくろ」に直行。なかなか箱は一杯になりません。それでもハウスの暑さにめげずに何箱もの苺を収穫

して、無事帰路につきました。

次の日は、さあ!!ジャム作りです。ここでは職員の出る幕はほとんどありません。女性だけではなく、男性の利用者の方々もエプロン姿で参加され、食堂は苺の香り一杯になりました。「苺ジャムのできは？」と問われるまでもありません。早速、朝食のパンと一緒に披露目です。いつものジャムとは一味違う味に満足げな顔で「パンとジャムもっと頂戴？」という声が…至福の2日間でした。



2009（平成 21）年度 新規採用者

【浜松十字の園：18名】

（介護士）市川雄一・奥山宗寿・田中亜衣佳・川合佑哉・藤村優子・清水実・前橋きよみ・鈴木郁三・高野輝行・河合二三江・俊野まり子・福島宏江・野崎庸子（機能訓練士）藤田大輔（ヘルパー）久野房子（ケアマネ）森直美（看護師）市川百合子（栄養士）飯田有美



【御殿場十字の園：26名】

（介護士）芹澤有希・池原美雪・土屋喜史・風張智・田原綾子・和田春奈・吉本武央・松本有里・岡田ふさの・鬼塚歩・室伏千鶴・深沢直子・舟木美津子・磯野芳美・江口佐和子・土屋恵美子・沓間昭子・岩瀬美恵子・高田米子・高村ちよ子（ヘルパー）芹澤和江（ケアマネ）宇佐見昌彦・杉山かおる（看護師）阿久津サカエ・田代操（社会福祉士）鈴木瑠美

【伊豆高原十字の園：16名】

（介護士）小林淳美・加藤広美・増田真二・富岡良太・八木たき子・池田ありさ・塚原一顕・西川啓一（看護師）内山みどり（調理師）佐々木美智子（ヘルパー）古瀬和映・渡辺和奈（介護タクシー）渡辺利明（デイ相談員）青木恵美子（居宅介護支援専門員）飯田清久（包括介護支援専門員）小針国子

【アドナイ館：5名】

（介護士）大石利恵子（調理師）影山博美・鈴木恵美子・夏目正樹・五十嵐千佳

【松崎十字の園：21名】

（介護士）佐山貴信・藤井正樹・渡邊治郎・桑子一善・長嶋園恵・佐々木正章・川井拓磨・土屋敬亮・高野悦子・山本健太・船津一美・石田恵・藤原ヒロ子・山崎幸子（ケアマネ）大塚知憲・梅田友子（栄養士）板垣佳那子（機能訓練士）鈴木洋（相談員）三宅美恵子（調理師）佐藤ゆかり・三津谷祐子

【伊東市立養護老人ホーム：5名】

（介護士）大谷ひとみ・斎藤美香・石川真（相談員）岩瀬絹代（調理師）菊間千代子

計 91 名（辞令交付式には 29 名が出席しました）

温かいご支援をありがとうございます！

法 人 本 部	15 件	75,960 円
浜 松 十 字 の 園	97 件	35,152,109 円
御 殿 場 十 字 の 園	152 件	2,291,777 円
伊 豆 高 原 十 字 の 園	58 件	1,328,925 円
松 崎 十 字 の 園	27 件	1,823,000 円
ア ド ナ イ 館	141 件	6,362,429 円
御 殿 場 ア ド ナ イ 館	3 件	52,965 円
オ リ ブ	5 件	52,000 円
伊東市立養護老人ホーム平和の杜	28 件	369,732 円
合 計		47,509,397 円

去年度も多くの皆様からこころ温まるご支援とご寄付を賜り誠にありがとうございます。皆様方から寄せられたご寄付は、より良い施設づくりのための施設整備及び備品購入にあてさせていただきます。

今後とも、福祉共生社会の成熟に貢献しつつ、皆様の声に適切に応える施設として活動する十字の園へのご支援を宜しくお願い致します。

皆様の暖かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平 井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345

**あ と
が き**

5月は、第2アドナイ館の竣工式、決算理事会と、盆と正月をいっぺんに迎えたごとく、賑やかな日々でした。法人の事務局も第2アドナイへと移転し、まさに新体制への新年度といった趣の6月は、紫陽花を桜に見紛うほどの初々しさです。

さらに伊豆高原十字の園の移転・新設の計画も具体的になり、「進化するミラクル十字の園」へと「いつでも夢を」紡いで、歩み続ける未来をずっと描いて行きたいですね。（鈴木）